



## バスラ日誌（5月23日）

1 お隣コンテナに新しい警備中隊の隊員が入ってきた。昨日一杯は、引っ越しでゴタゴタしていたようで、帰国のために出ていったグループのような明るさはなかったが、色々指示する声が飛び交い活気はあった。「ケイオス（混沌としている。）」と話しかけてくれたので、ちょっとした間話をした。これから6ヶ月間の警備任務に就くわけであるが、被害が出ないことを祈っている。

昨日出たJ2の情報報告書によると、6日バスラ市において墜落した英軍ヘリ（リンクス）の墜落原因は、携帯対空ミサイル（MANPAD）による撃墜とのこと。当時、複数の携帯SAMを携行したグループが配置についていたという情報もあるとのこと、この情報が正しければ、まだ使用されていない携帯SAMが存在することになる。地上移動にもIEDの脅威はあるが、空路移動についても必要最小限に止めるべきであろう。

2 先日のIED攻撃による英軍殉職者2名のご遺体を本国に送還する儀式が、明日1800から実施される。我々がバスラに来てからだけでも、4回目の本国送還式である。イラク南東部は比較的平穏と言われているが、殉職者の棺を目の当たりにすると、これが現実なのだと思う。日本隊としての哀悼の意を表すために、一しおではあるが、サマワ本隊の代理のつもりで参加している。

式典は至って質素であるが、英国軍の伝統と宗教の影響を反映して、とても厳かな、重みのある儀式である。夕方とはいえ日はまだ高く、気温も尋常ではないので、式典が始まる前の時間も入れると約2時間余り、屋外で立っているだけでかなり消耗する。先日の式典の時には、3、4箇所で倒れる人が出たが、私の1人置いて前の列の隊員も正面にまともに倒れ、助けようとしたが届かなかった。倒れた若い隊員を介抱していると後方から下士官が来て運んで行った。私の前の人には、助けようとしないので、冷たい奴だなと思っていたが、後で聞くと、下士官はそのような時でも動けないのだそうだ。そんな時には、列外にいるサージャント・メジャーが対応するらしく、後から来た人がそうだったのだと思う。そうは言っても、滑走路のコンクリートにまともに倒れる同僚を助けられないとは、ちょっと・・・。

3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。